

青少年のフィルタリング設定状況の現状と対策

代表研究者 竹内和雄 兵庫県立大学環境人間学部 准教授

1 私たちの社会とインターネット

1) インターネット問題の現在

急激な勢いで、私たちの生活にインターネット（以下、ネット）が入り込んでいる。簡単に何でも調べることができ、連絡に簡単にとることができるようになった。多くの家電にもネットが活用されていて、私たちの生活は以前では考えられないほど便利になった。この状況は今後も変わることなく、推進されていく。

政府は2016年、第5期科学技術基本計画を発表した。これから私たちが進む道を Society5.0 と表現した。Society1.0 狩猟社会、Society2.0 農耕社会、Society3.0 工業社会、Society4.0 情報社会の先に Society5.0 新たな社会、超スマート社会を位置付けた。内閣府のHPの記載を引用する。「Society 5.0 で実現する社会は、IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革 (イノベーション) を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります」(総務省、2016)。バラ色の未来予想図である。

2) インターネットの光と影

私ももちろん、上記のような方向性を支持するが、まだ私たちの社会はネットを十分に使いこなせていない。Society5.0 につながるイメージを「光」の部分とすると、その反対側の「影」の部分もまだ私たちの社会には厳然と存在している。私は、長くそういう、ネットの「影」の部分、特に子供たちへの影響について研究してきた。本稿では、そういう影響について、特にフィルタリングでの対策を念頭に置いて記載するつもりである。「インターネットと人権」というテーマに沿った内容で記載していくつもりである。

2 子供のインターネット使用の実態

1) 子供とネットトラブル

ネット依存、ネットいじめ、高額課金、フェイクニュース…。マスコミは連日、子どもとネット問題で溢れている。私は元中学教師で、2012年に現職についてからも、多くの機会に子どもたち自身が「スマホやネットとのかかわり方」等について話し合う、「スマホサミット」に年間30回以上関わっている。また、内閣府「青少年のインターネット利用環境実態調査」の企画分析に関わり、文部科学省「学校における携帯電

話の取扱いに関する有識者会議」の座長としても活動した。そういう状況なので、比較的この種の問題について情報が集まりやすい位置にいる。今回は、そういう立場の私が、今回の助成を活用した研究から見えている状況をできるだけ具体的に記載したいと考えている。

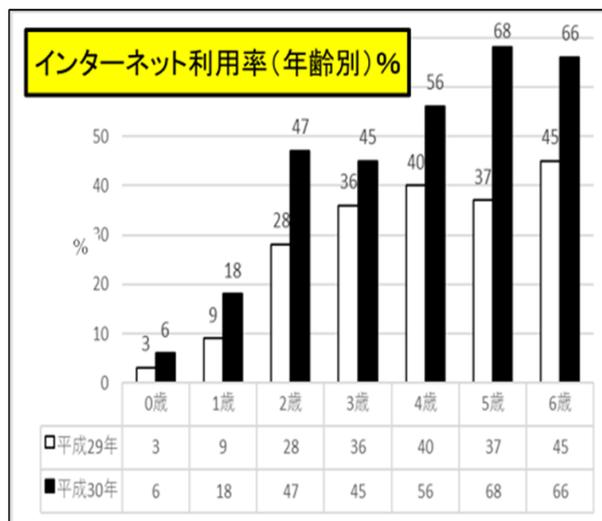


Figure1 インターネット利用率 (年齢別)

2) 幼児のネット利用率

ネット利用の低年齢化が急速に進んでいる。図1は、私が委員として関わっている、「青少年のインターネット利用環境実態調査」(内閣府、2019)のデータをグラフ化したものである。

平成29年(白棒)から平成30年(黒棒)にかけて、急激に利用率がふえていることがわかる。特に平成

29年の4歳児（40%）の1年後、平成30年の5歳児（68%）と、1年で28ポイントも伸びていることがわかる。私は内閣府の調査を含めて、政府の調査に多く関わっているが、国の調査でこれほどの伸びを示すのは他にあまり例を知らない。子供たちに新しい何かが起こっていると考えてよいだろう。

見てわかるように0歳児がすでにインターネットを使っている。0歳児は勝手に使えないので、保護者が見せているのだろう。このように乳幼児のインターネット利用は、子ども自身が利用だけでなく、保護者が与えている場合も多いのが他の年代との違いである。

平成29年の4歳児はすでに40%がネット利用をしていて、5歳児の37%を上回っている。1年後の翌30年、5歳児は68%で、6歳児の66%を上回っている。私は長く、この種の調査に関わってきているが、基本的には右肩あがりのグラフで、年齢が上がるほど利用率等は上昇する。このような逆転現象は極めて珍しい。興味を持った学生と聞き取り調査をしてみると、驚くべきことが判明した。結果を端的に書くと「母親の変化」である。つまり、「ネット利用に慣れた母親が育児にもスマホを活用している」ということである。つまり「ネット・ネイティブ2世問題」が起き始めているのである。熟さない言葉なので解説しよう。彼らは「ネット・ネイティブ」の子ども、つまり「ネット・ネイティブ2世」なのである。今後、この年齢の子どもたちは他の子どもたちと違った育ちをしていくと私は予想しているが、「ネット・ネイティブ2世」は私がこの原稿を書いている2020年冬は小学2年生。来年は小学3年生になる。幼児からネットを使いこなしている子どもたちが今後、大挙して学校にやってくる。正念場を迎えるだろう。

さらに4歳から5歳への1年間で、実に28ポイントも利用率が高まっている。国の調査でこの上昇も異例である。子どもたちに何か確実に起き始めていると考えてよいだろう。もちろん幼児は勝手に動画を見ない。家事に集中するためにYouTube等を見せている場合も多いだろう。これ自体は昭和のテレビ、平成のビデオの代替えで今にはじまったわけではない。しかしテレビやビデオは終わりがあるが、ネットには動画が無尽蔵にある。「関連動画」をタップすれば興味があるものがどんどん再生される。「関連動画」に何を配置するかはAIが活用されていて、個人ごとにリストは最適化されているという。企業努力としては素晴らしいが、放置できない状況にまで来ている。

3) 小中学生のスマートフォン所持率

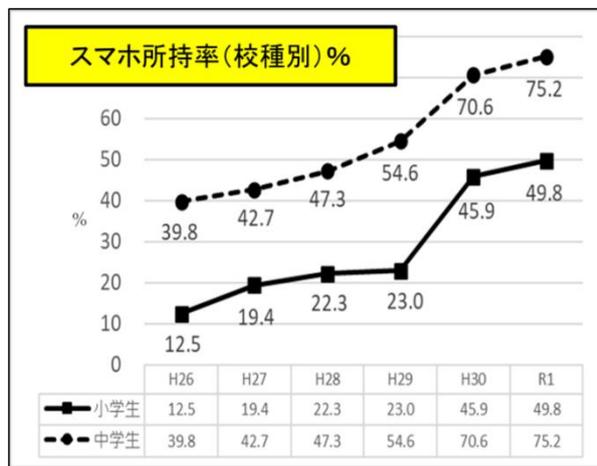


Figure2 スマートフォン所持率（校種別）

図2は、内閣府（2020）のデータをグラフ化したものである。小中学生ともに、右肩上がりにスマートフォン所持率が上がっていることを読み取ることができる。令和元年度には小学生の約半分、中学生は約8割がスマートフォンを所持している。つまり、ここ5年で中学校は約2倍、小学校は約4倍である。

5年前の「所持している方が少ない指導」から、「持っている方が多い」指導への切り替えが必要である。ここしばらくの伸びを考えると小学校でもこの傾向は続くと言料できる。この問題は、これまで後追い指導が多かったので、急激な低年齢化がすでに見えているので、早急で確実な対応をしていく必要があるだろう。

また、内閣府（2021）によると、5歳児のインターネット利用率は66.0%である。

保護者に「スマホネイティブ」が増えてきたことも一因と考えられるので、今後の低年齢層への対応を含めて今後重要な視点である。

3 研究方法

1) 研究の概要

①研究1 フィルタリングアンケートの分析

- ・概要 スマホサミット対象地域の小中高校生対象のフィルタリングアンケート分析
- ・内容 インターネット利用の詳細、フィルタリング設定の有無など
- ・項目 フィルタリングの有無 インターネット利用時間
朝食摂取頻度 勉強への自信
ネット上でのけんかやトラブルの経験
会ったことがない人とのネット上でのやりとり経験
インターネットで知り合った人と実際に会った経験
いらだち など
- ・分析 フィルタリング設定の効果
インターネット利用の課題
- ・対象 スマホサミット（2020）実施地域の小中高校生
小松市 2020年07月22日 11月21日
大阪府 2020年08月02日 11月15日 12月06日
寝屋川市 2020年08月31日
兵庫県 2020年09月13日 10月11日 12月13日
滋賀県 2020年09月27日 10月18日
京都府 2020年09月19日 11月08日
たつの市 2020年12月05日
茨木市 2020年12月23日
大阪市 2021年01月23日
神戸市 2021年01月30日 03月07日
関西 2021年02月14日 欠損値のない2962人を分析対象とした

②調査2 インターネット利用アンケートの分析

- ・概要 スマホサミット対象地域の小中高校生対象のインターネットアンケート分析
- ・内容 インターネット利用の詳細
- ・項目 インターネット利用時間
帰宅後の状況
- ・対象 大阪府スマホサミット（2020）参加地域の小中高校生

③調査3 フィルタリングについての聞き取り調査

- ・概要 各サミットでフィルタリング設定についてインタビュー調査
- ・内容 設定状況、改善点等
- ・対象 各地の小中高校生
小松市 2020年07月22日 11月21日
大阪府 2020年08月02日 11月15日 12月06日
寝屋川市 2020年08月31日
兵庫県 2020年09月13日 10月11日 12月13日
滋賀県 2020年09月27日 10月18日
京都府 2020年09月19日 10月18日
たつの市 2020年12月05日
茨木市 2020年12月23日
大阪市 2021年01月23日
神戸市 2021年01月30日 03月07日
関西 2021年02月14日

4 研究結果及び考察

1) 研究1 フィルタリングアンケートの分析

①調査協力者の校種, 学年, 性別

調査協力者の校種, 学年, 性別ごとの人数

校種	学年	性別		合計
		男子	女子	
小学校	5	76	76	152
	6	96	67	163
中学校	1	266	224	490
	2	165	179	344
	3	117	129	246
高校	1	219	286	505
	2	214	284	498
	3	259	305	564
合計		1412	1550	2962

今回は, スマホサミット参加者のうち, 小学校5年生から高校3年生までの有効回答2,962人分を分析対象とした。

②フィルタリングとその他の調査項目との関連

フィルタリングの有無とインターネット利用時間, 朝食摂取頻度, 勉強への自信, ネット上でのけんかやトラブルの経験, 会ったことがない人とのネット上でのやりとり, インターネットで知り合った人と実際に会うこと, ネット依存, いらだちの関連を検討するため, 項目間の相関を求めた。その結果をTable 1に示す。

Table 1 フィルタリングの有無とその他の調査項目との相関(N=2962)

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1 フィルタリングの有無	—								
2 インターネット利用時間	-.22 ***	—							
3 朝食摂取頻度	-.09 ***	.15 ***	—						
4 勉強への自信	.12 ***	.20 ***	-.13 ***	—					
5 ネット上でのけんかやトラブルの経験	-.11 ***	.19 ***	.08 ***	.07 ***	—				
6 会ったことがない人とのネット上でのやりとり	-.21 ***	.30 ***	.13 ***	-.18 ***	.32 ***	—			
7 インターネットで知り合った人と実際に会う	-.11 ***	.10 ***	.08 ***	-.09 ***	.25 ***	.35 ***	—		
8 ネット依存	-.07 ***	.18 ***	.05 **	-.15 ***	.18 ***	.18 ***	.11 ***	—	
9 いらだち	-.01	.14 ***	.01	-.15 ***	.14 ***	.10 ***	.05 **	.22 ***	—

***, $p < .001$, **, $p < .01$

分析の結果、フィルタリングの有無は、インターネット利用時間、会ったことがない人とのネット上でのやりとりと弱い相関が有意にあることが認められた。また、フィルタリングの有無と関連が認められたインターネット利用時間は、勉強への自信と弱い相関が有意に認められたことから、フィルタリングの有無と勉強への自信は、間接的に関連している可能性が示された。また、同じくフィルタリングの有無と関連が認められた会ったことがない人とのネット上でのやりとりは、ネット上でのけんかやトラブルの経験、インターネットで知り合った人と実際に会うことと弱い相関が有意に認められたことから、フィルタリングの有無とネット上でのけんかやトラブルの経験、インターネットで知り合った人と実際に会うことも間接的に関連している可能性が示された。

②フィルタリングの有無によるインターネット利用時間やネット上のけんかやトラブル機会の違い

フィルタリングの有無によってインターネット利用時間やネット上でのけんかやトラブル等の調査項目に差があるかを調べるために t 検定を行なった。インターネット利用時間を従属変数、フィルタリングの有無を独立変数とする t 検定を行なった結果、インターネット利用時間に有意な差が認められた ($t(2960)=12.28, p<.001$)。

同様にネット上でのけんかやトラブル、会ったことがない人とのネット上でのやりとり、インターネットで知り合った人と実際に会うこと、朝食摂取頻度、勉強への自信を従属変数、フィルタリングの有無を独立変数とする t 検定を行った (Figure 1)。

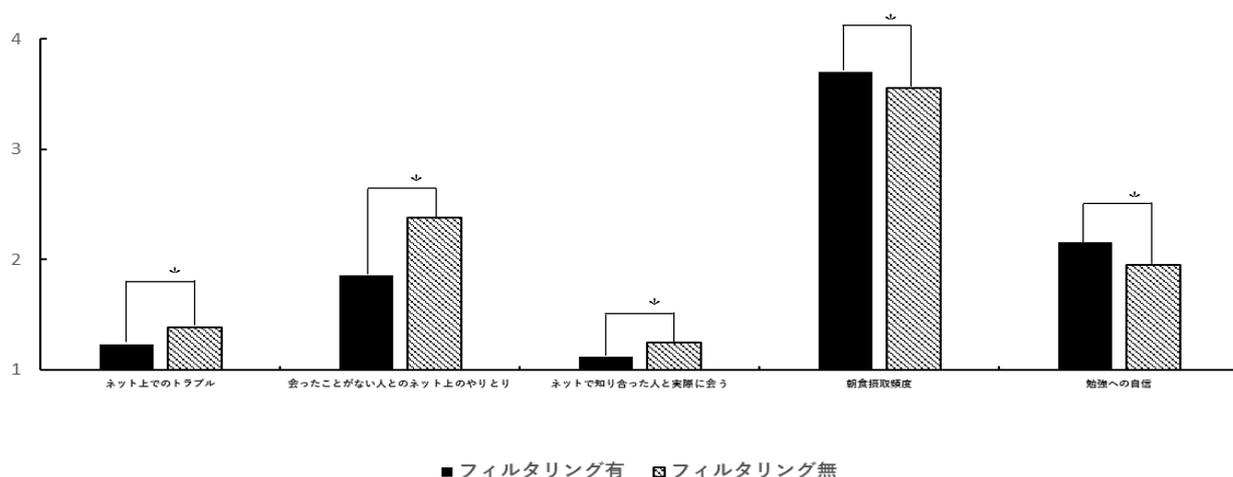


Figure3 フィルタリングの有無によるネット上でのトラブル等の違い

起床時刻 ($\chi^2=21.63, df=4, p<.001$)、これまでの課金代金 ($\chi^2=96.65, df=6, p<.001$)、ネットトラブル時の相談相手 ($\chi^2=87.57, df=4, p<.001$)の全てが有意であった (Figure 2, 3, 4, 5 Table2, 3, 4, 5)。

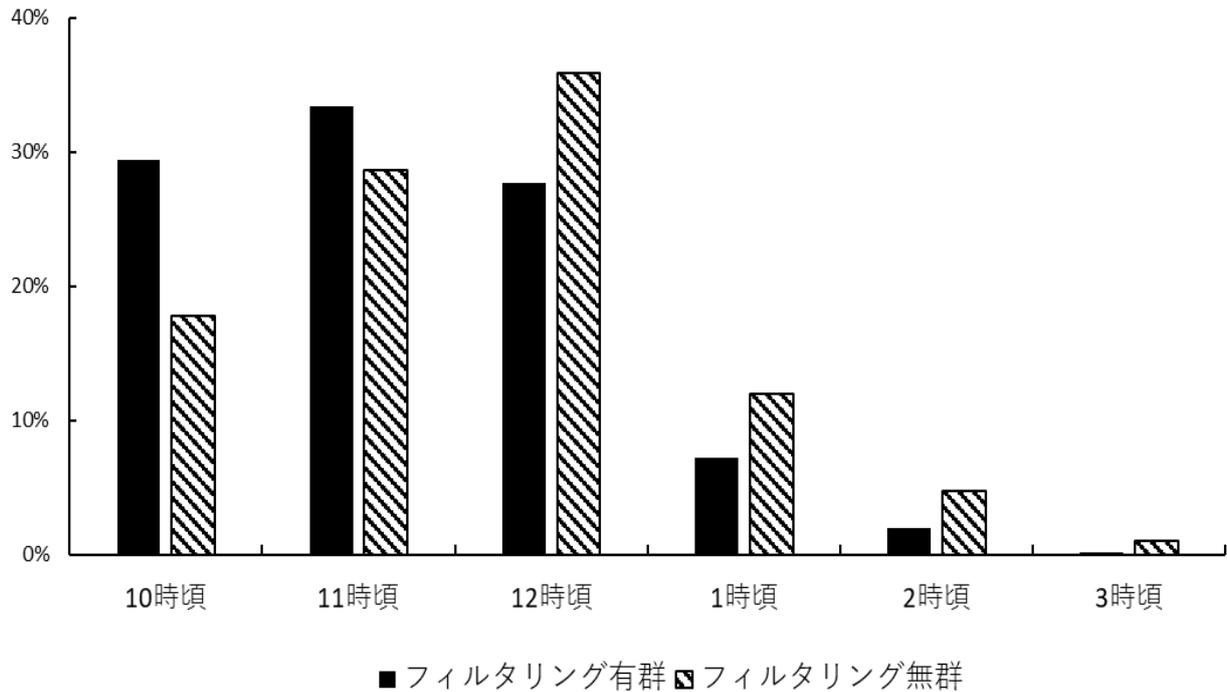


Figure 4 フィルタリングと就寝時刻の関連

Table 2 フィルタリングと就寝時刻の関係

フィルタリング	起床時刻						$\chi^2(54)$ Cramer's V
	10時頃	11時頃	12時頃	1時頃	2時頃	3時頃	
有り	<u>391**</u>	<u>444**</u>	<u>368**</u>	<u>96**</u>	<u>27**</u>	<u>3*</u>	102.84***
無し	<u>290**</u>	<u>467**</u>	<u>587**</u>	<u>196**</u>	<u>77**</u>	<u>16*</u>	0.19***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$, 下線は有意に多いことを示す。

就寝時間に関する回答として、フィルタリング「有り」が「無し」に比べて有意に多いのは、「10時頃」「11時頃」で、少ないのは「12時頃」「1時頃」「2時頃」「3時頃」である。つまり、フィルタリング「有り」は、早い時間帯に就寝する人が有意に多く、遅い時間帯に就寝する人が有意に少ない。実際のところ、フィルタリングを設定させる保護者がもともと早く就寝させる意識が高い可能性もあり、フィルタリングの効果だと特定することは難しいが、フィルタリングの設定を推奨していくためには良い結果であると言えるだろう。

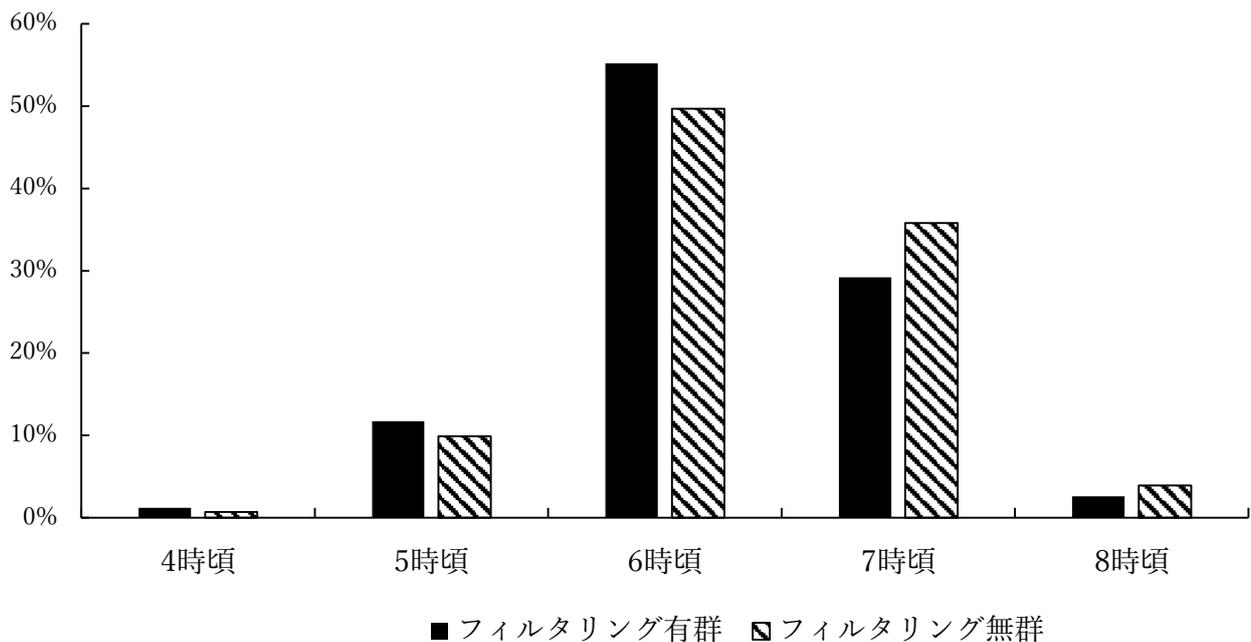


Figure 5 フィルタリングと起床時刻の関連

Table 3 フィルタリングと起床時刻の関係 (N=2962)

フィルタリング	起床時刻					$\chi^2(4)$ Cramer's V
	4時頃	5時頃	6時頃	7時頃	8時頃	
有り	16	<u>156</u> [†]	<u>734</u> **	388**	35 [†]	21.63***
無し	12	161 [†]	812**	<u>584</u> **	<u>64</u> [†]	0.09***

[†] $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$, 下線は有意に多いことを示す。

起床時間に関する回答として、フィルタリング「有り」が「無し」に比べて有意に多いのは、「5時頃」「6時頃」で、少ないのは「7時頃」「8時頃」である。つまり、フィルタリング「有り」は早い時間帯に起床する人が有意に多く、遅い時間帯に起床する人が有意に少ない。これも、就寝時間と同じように、フィルタリングを設定させる保護者がもともと早く起床させる意識が高い可能性もあり、フィルタリングの効果だと特定することは難しいが、フィルタリングの設定を推奨していくためには良い結果であると言えるだろう。

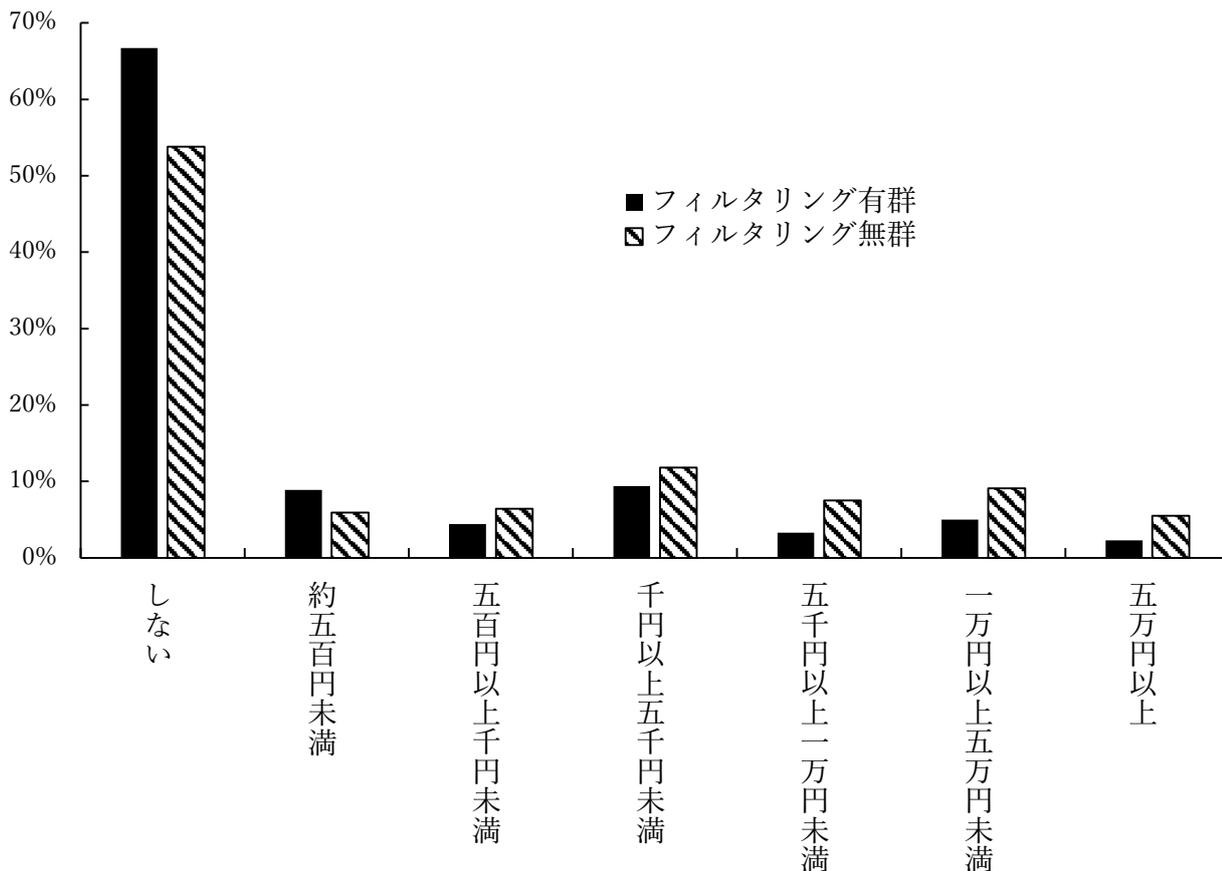


Figure 6 フィルタリングと課金との関連

Table 4 フィルタリングと課金代金の関係

フィルタリング	これまでの課金代金							$\chi^2(6)$ Cramer's V
	しない	500円未満	500円以上 1000円未満	1000円以上 5000円未満	5000円以上 10000円未満	10000円以上 50000円未満	50000円以上	
有り	887**	118**	58*	125*	44**	67**	30**	96.65***
無し	879**	97**	105*	192*	122**	149**	89**	0.18***

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$, 下線は有意に多いことを示す。

課金代金に関する回答として、フィルタリング「有り」が「無し」に比べて有意に多いのは、「しない」「500円未満」で、少ないのは「500円以上1000円未満」「5000円以上10000円未満」「10000円以上50000円未満」「50000円以上」である。つまり、フィルタリング「有り」は、課金額が少ない(500円未満)のが有意に多く、課金額が多い(500円以上)が有意に少ない。これも、就寝時間と同じように、フィルタリングを設定させる保護者がもともと課金を許さない意識が高い可能性もあり、フィルタリングの効果だと特定することは難しいが、フィルタリングの設定を推奨していくためには良い結果であると言えるだろう。

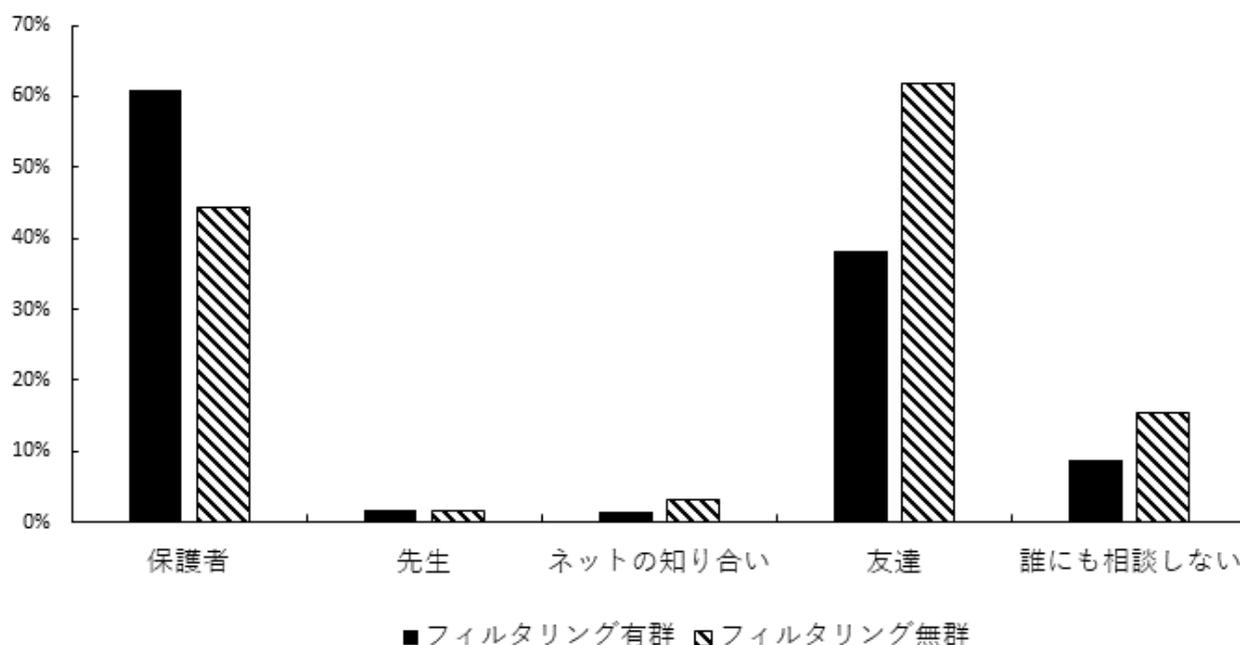


Figure 7 フィルタリングとトラブル時の相談相手との関連

Table 5 フィルタリングとネットトラブルの際の相談相手との関係 (N=2962)

フィルタリング	ネットトラブルの際の相談相手					$\chi^2(4)$ Cramer's V
	保護者	先生	ネットの 知り合い	友達	誰にも 相談しない	
有り	<u>810</u> **	22	<u>20</u> **	<u>359</u> **	<u>118</u> **	87.57***
無し	<u>725</u> **	27	<u>50</u> **	<u>581</u> **	<u>250</u> **	0.17***

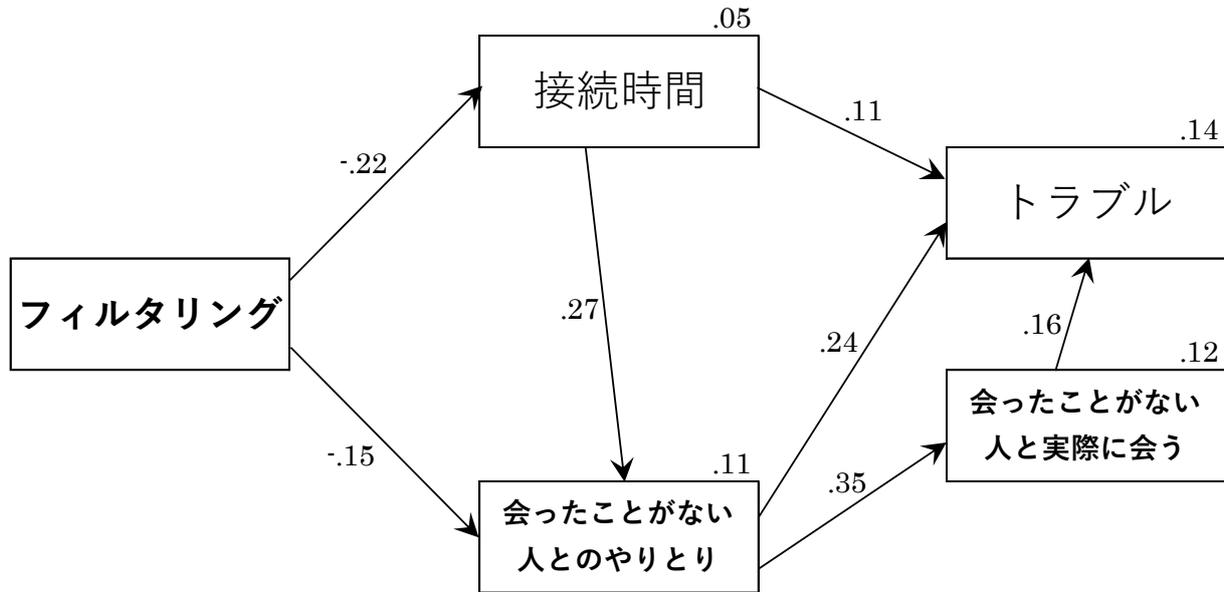
** $p < .01$ *** $p < .001$, 下線は有意に多いことを示す。

ネットトラブルの際の相談相手に関する回答として、フィルタリング「有り」が「無し」に比べて有意に多いのは、「保護者」で、少ないのは「ネットの知り合い」「友達」「誰にも相談しない」であり、「先生」には有意な差が認められなかった。子どもにフィルタリング設定をさせている時点で保護者と子どもの関係が良好なためかもしれないし、フィルタリングの設定により相談しやすくなっているのかもしれない。そのあたりはわからないが、フィルタリングの設定を推奨していくためには良い結果であると言えるだろう。;

これらの結果から、フィルタリングを活用している方が、就寝時刻と起床時刻が早く、これまでの課金代金合計が少なく、ネットトラブルがあったときに、保護者と積極的に相談するとともに、誰にも相談しないということを選択することが少ない可能性が示された。フィルタリングを活用することで、不必要なサイトを閲覧することがなくなり、早く就寝した結果、起床時刻も早くなるということが考えられる。また、結果的にインターネット利用時間も減少し、不必要な課金をしにくくなるということが考えられる。さらに、フィルタリングを活用している群は、ふだんから保護者とネット利用などについて話し合う関係にあることで、ネットトラブルが起きた際も、保護者に積極的に相談することが示唆された。

④フィルタリングがネットトラブルに及ぼす影響

フィルタリングの有無とインターネット接続時間、会ったことがない人とのネット上でのやりとりや会ったことがない人と実際に会うこと、そしてインターネットトラブルとの関係を明らかにするため、予測されたプロセスをもとに共分散構造分析をおこなった(Figure)。その結果、いずれの適合度指標においても十分な値が得られた ($\chi^2(3)=6.059$, GFI=.999, AGFI=.996, AIC=30.059, RMSER=.019)。



$\chi^2(3)=6.059$, GFI=.999, AGFI=.996, AIC=30.059, RMSER=.019

Figure8 フィルタリングがネットトラブルに及ぼす影響

フィルタリングから接続時間には、負の影響が認められた($\beta=-.22$, $p<.001$)。同様に、フィルタリングから、会ったことがない人とのやりとりに負の影響が認められた($\beta=-.15$, $p<.001$)。接続時間からは、トラブル($\beta=.11$, $p<.001$)に直接正の影響が、会ったことがない人とのやりとり($\beta=.27$, $p<.001$)にも正の影響が認められた。会ったことがない人とのやりとりからトラブルに正の影響($\beta=.24$, $p<.001$)が、会ったことがない人と実際に会うことにも正の影響($\beta=.35$, $p<.001$)が認められた。また、会ったことがない人と実際に会うことから、ネットトラブルにも正の影響($\beta=.16$, $p<.001$)が認められた。

これらの結果から、インターネット接続時間や、実際に会ったことがない人とのやりとり、会ったことがない人と実際に会うことを媒介して、フィルタリングの有無がインターネットトラブルに間接的に影響を及ぼしていることが明らかとなった。フィルタリングを活用することで、有害なサイトを遮断するとともに、不必要なインターネット接続時間を減らし、会ったことがない人とのやりとりや会ったことがない人と実際に会うといった機会を減らすことで、結果的にインターネットトラブルが減少するということが考えられる。

今回の結果から、フィルタリングの設定がトラブルに直接影響するのではなく、「接続時間」「会ったことがない人とのやりとり」を経由して影響していることは示唆深い。

2) 調査2 インターネット利用アンケートの分析

①日常的にネット接続している割合

大阪府スマホサミット2020では、小学生1年生から高校3年生までを対象に2020年7月、27,188人対象（有効回答）にアンケート調査を実施した。その中で、「日常的にインターネット接続している割合」を調べた。Figure8はその結果をグラフ化したものである。

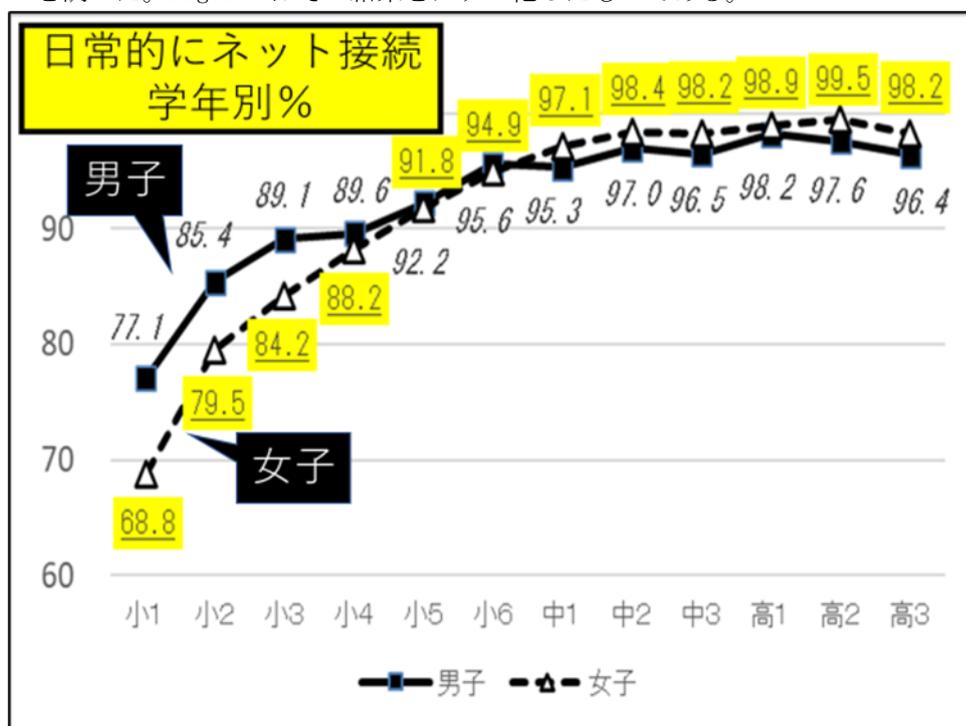


Figure9 日常的にネット接続する割合（学年別、男女別）

小1ですでに男女ともに約7割がネット接続しており、小学校高学年で9割に達する。さらに詳しく見てみると、小学校低学年の間は男子の方が接続率が高いが、小学校高学年で逆転して女子が高くなる。このグラフを各地のスマホサミットで小中高校生に示し、感想を聞いた。以下は、その内容のうち典型的な高校生4人（男子2名、女子2名）からの回答である。

- A男 低学年の間はゲーム機。
- B男 最近の小学生は任天堂 Switch とかでオンライン対戦してる。
- A男 コロナ休校とか、学校もなかったし、公園でも遊べなかった。
- B男 自分の家でみんなでゲームしてたよな。
- A男 フォートナイトとか荒野行動とか。
- 筆者 どんなゲーム。
- A男 100人で無人島で殺し合う
- B男 生き残った人が勝ち。
- A男 5人くらいのチームで闘う。
- 筆者 みんなで闘うわけ？
- A男 ボイスチャットで相談しながらやる。
- B男 自分が行かないとみんなの命が危ない(笑)
- A男 命がけだから欠席は許されない(笑)
- C子 男子は大変(笑)
- A男 ほんまそれ
- B男 課金してアイテムゲット！

D子 女子はSNSだからそこまで必死じゃないよ
A男 でもインスタ映えとか、いいねとかたいへんそう(笑)
D子 まあね、でも楽しい範囲。
筆者 どんなアプリ？
C子 TwitterかInstagramかな。
筆者 LINEは？
C子 LINEは業務連絡。
D子 そだね。
A男 うん。部活とか授業とかの連絡が来る。
筆者 個人的なやり取りは？
C子 私はInstagramのDMが多いかな。
D子 私はTwitter。
筆者 どうやって決めるの？
C子 相手によって何となく。
筆者 どちらもやってない子はいないの？
C子 親がやらせてくれない場合も多い。
D子 そういう場合はLINEでやるかな。
D子 最近はTikTokも
筆者 TikTokってSNS？
C子 うん。

つまり、小学校低学年の間は、主にゲームでのインターネット接続のため、男子児童の割合が高いが、中学校になった頃から、女子生徒がSNSで繋がろうとするので割合が高まる。

③帰宅後一番すること

Figure10は、前記、大阪府スマホサミットアンケートでの「帰宅後一番すること」の結果をグラフ化したものである。子供たちが平日、家庭で何をするかの質問で、選択肢は傾向がつかみやすいように、事前調査で回答の多かった「ネット」「テレビ」「ネット以外の遊び」「勉強等」の4つに絞った。

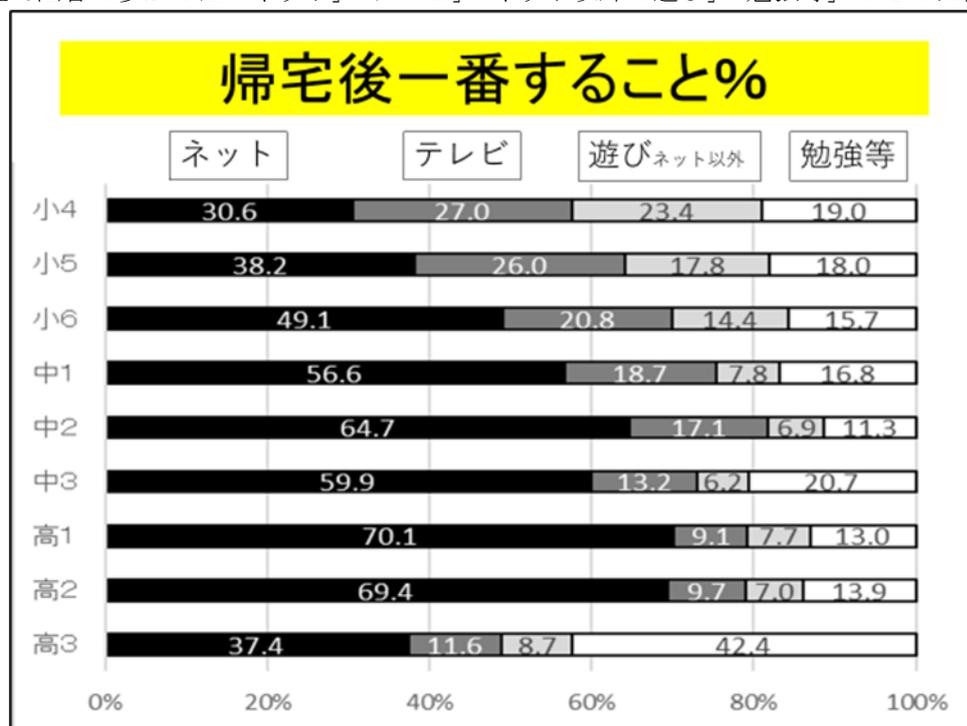


Figure10 帰宅後一番すること（学年別）

最も特徴的なのは「ネット」の伸びである。小4 30.6%が高1では7割を超えている。調査がコロナ禍であることを差し引いてもかなりの伸びである。小1ですでに男女ともに約7割がネット接続しており、小学校高学年で9割に達する。さらに詳しく見てみると、小学校低学年の間は男子の方が接続率が高いが、小学校高学年で逆転して女子が高くなる。このグラフを各地のスマホサミットで小中高校生に示し、感想を聞いた。以下は、先と違う中高校生4人（男子2名、女子2名）に聞いた内容である。

- 筆者 どう思う？
E男 まあ、そうね、って感じかな。
F男 基本テレビ見ないよね。
G子 テレビは勝手にやってるからね。
筆者 勝手にって？
G子 時間が決まってるから、私たち暇じゃないっていうか…。
H子 YouTube はいつでも大丈夫だから見ちゃうかな。
E男 ネット以外の遊びは、場所がない
筆者 場所？
F男 公園でサッカーしてたら怖いオバサンが怒りに来る！
E男 「この公園は球技禁止よ！」
F男 「小さい子が遊べないでしょ！」ってね。
E男 僕らも遊び場ないからね。
F男 ほんまそれ！
筆者 受験生でも勉強が一番じゃない子もいる？
E男 僕らは塾で勉強
G子 家は誘惑が多いから勉強にならない
筆者 誘惑？
G子 スマホとかスマホとかスマホとか(笑)
E男 ゲームに電話に漫画にYouTube…。
H子 塾に行ったらスマホ、触れない。
F男 僕は学校に残って勉強。
G子 家には「勉強は持ち込まない主義」って子多いよね。
F男 ああ、僕もそれぞれ。
筆者 塾に行けない子は？
F男 そんな子いないよ
H子 私の友達はマクドナルドでしてる。100円でコーヒー注文して。

年齢が上がると「ネット」の回答が増え、中学生になると過半数が「ネット」と答えるようになる。一方、「テレビ」や「ネット以外の遊び」は減少していく。彼らの言葉からもわかるように、「ネット」は彼らの生活状況にマッチしているのだろう。塾や習い事等で忙しい彼らにとって、放映時間が決まっている「テレビ」は合わなくなっていて、いつでもアクセスできるYouTube等が合うのだろう。さらにネット以外で遊ぼうと思っても、公園等のリアルな遊び場は「球技禁止」等でそもそも遊ぶことができない。そういう状況もあって、ネットが増えていくのだろう。

さらにわかったのは彼らの学習状況である。彼らは家の多くが自宅の勉強机を勉強場所を選んでいないことである。勉強の阻害要因として、スマホを挙げているが、スマホでは「ゲーム」「電話」「漫画」「YouTube」等、いろいろなことができる。そのほか、SNSや検索もできる。スマホを触れない「避難場所」として「塾」「学校」等を挙げていて、塾に行けない子は「マクドナルド」等でお金を払って学習環境を手に入れている。私たちの世代も多くが図書館等で学習していたが、そこで手に入れた学習環境は「静寂」であったと記憶するが、今は「スマホを触れない状況」なのだろう。

3) 調査3 フィルタリングについての聞き取り調査

内閣府（2021）の保護者への調査によると、フィルタリング設定率は小学生 30.1%、中学生 47.5%、高校生 39.4%とどの校種でも半数以下である。近年、子どもがインターネットで被害に遭うケースが頻発していることを考えると、少ない印象である。

各地のサミットで、子どもたち 65 人に半構造化インタビューを実施した。質問として、「どうして設定率が上がらないか」「設定を増やすためにはどうしたらよいか」を共通質問とした。

①フィルタリングしない人が多い理由

設定しない人が多い理由として子どもたちが挙げたのは、多い順に以下の4つであった。

1. 設定すると面倒

回答として最も多かった（54人）のが「設定すると面倒」というものである。「調べものをしているときに、ブロックされて面倒（高校生男子）」「普通に調べているのにフィルタがかかる（中学生女子）」などである。

2. LINE ができない

「フィルタリングしたら LINE ができない（小学生女子）」「Twitter を使いたいから（中学生男子）」等、使いたいアプリ等が使えないことを理由に挙げたのが2番目に多かった（35人）。実際は、保護者が許可すると LINE を使えるのだが、その設定が難しいという。各携帯事業者が容易化措置をしているが、それでも難しいという答えが多い。

3. 店で「どうせしないでしょ？」と言われた

「携帯電話を購入した際、店員から『フィルタリングなんて設定しないでしょ？』と言われた（中学生男子）」等の答えが3番目に多かった（15人）。平成30年2月1日、インターネット環境整備法改正により、18歳未満の青少年がスマートフォン等を契約、機種変更する際、店頭などでのフィルタリング設定が義務化されたが、実際は課題が残った。各携帯電話事業者が説明を工夫しているが、直営店以外では実際はうまくいっていない可能性がある。

4. 親が信用してくれている

「保護者から信用してるから設定しないと言われた（中学生女子）」等の回答も多かった（13人）。保護者自身が古田リングしてこなかった場合、子どもにも同様にすることが多いようだ。

子どもへの聞きとり調査から以上のような状況がわかった。今後の施策に活かしていきたいと考えている。

②設定率をあげるためどうしたらよいか

1. 設定を簡単にする

「簡単に設定できるようにする（中学生男子）」「LINE を使えるようにしたりするのを簡単にしたらよい（中学生女子）」などの回答が多かった（44）。

2. どうせ伸びない

「今時、フィルタリングする人はいない（高校生女子）」「厳しい親じゃないとしない（高校生男子）」等の声が多い（20人）。

3. 小さいころから設定する

「中学や高校になってからでは遅い（高校生女子）」「小学生の時は設定（中学生男子）」等、低年齢への設定を推奨する声が多かった（10人）。

③聞き取り調査らわかったこと

今回の調査からわかったことは、携帯電話業者等の調査と違って、子どもたちはフィルタリングにかなり否定的な見解を持っていることである。中には「フィルタリングという名前が悪い（中学生男子）」という声まであった。スマートフォン所持の低年齢化が進み、GIGA スクール構想で、小中学生が一人1台情報端末を所持する時代であるので、「禁止や制限」を中心に進めてきたこれまでの施策の見直しが迫られている印象を受けた

また、2018年の「インターネット環境整備法」改正を受けて、フィルタリング設定が強化されているが、実際の店頭ベースでは十分でない可能性も指摘できる。今回の調査が子どもたちへのインタビューであったため、実際のものとは異なる場合もあるが、警鐘を鳴らすだけの価値はあるだろう。

5 総合考察

今回、フィルタリングに焦点を当てた調査を行ったが、様々な新しい知見が得られた。

最も大きな新たな知見は、「フィルタリングが直接、トラブルを減らしているわけではなく、間接的な効果をあげている」点である。Figure8の結果に顕著だが、今回の調査結果からは、具体的には「接続時間」「会ったことがない人とのやりとり」であった。

今回は質問項目が絞られたため、この2つであったが、実際には他にもある可能性ももちろんある。継続した調査が必要である。このあたりの入り口がわかると、対策がやりやすくなっていく。やみくもに子どものインターネット利用を制限するのではなく、危険の入り口をつぶしていく作業を繰り返すことが必要だと指摘できる。

子どもたちのインターネット問題はまだ始まったばかりである。今後まだまだ低年齢化、多様化、複雑化が予想される。そのためにも、今後もこの種の調査を継続して行っていく必要がある。

【参考文献】

- 青山郁子・五十嵐哲也：Problematic Internet Use (PIU) とオンラインゲームのユーザーに与えるネガティブな社会的、心理的影響：展望と課題，愛知教育大学保健環境センター紀要(10)，2011
- 秋田県：「うまホキャンプ」マニュアル，https://www.mext.go.jp/content/20200604-mxt_kyousei02-1418084_004.pdf
- 大分県：マインドクエストキャンプ実施運営マニュアル，https://www.mext.go.jp/content/20200604-mxt_kyousei02-1418084_006.pdf
- 岡本百合・三宅典江ら：大学生のインターネット使用の実態依存傾向と精神心理学的側面との関連，総合保健科学(30)，広島大学保健管理センター，pp.7-13，2014.
- 落合良行：友人関係の広がり，落合良行（編），中学三年生の心理 ―自分の人生のはじまり―，大日本図書，pp.130-155，1998.
- 春日伸予・伊藤克人：芝浦工業大学生のインターネット依存に関する調査研究，芝浦工業大学研究報告 人文系編，38(2)，pp.53-57，2004.
- 神奈川県青少年センター：チェンジライフキャンプ企画・運営マニュアル，https://www.mext.go.jp/content/20200604-mxt_kyousei02-1418084_005.pdf
- 木下康仁：グラウンデッド・セオリー・アプローチ ―質的実証研究への誘い―，弘文堂，2003.
- 木下康仁：定本 M-GTA :実践の理論化をめざす質的研究方法論，医学書院，2020.
- 後藤恵ら：摂食障害の入院治療-集団療法をとりいれて(第2報)：急性期治療病棟における摂食障害の治療的可能性と限界について，病院・地域精神医学 47(3)，2004.
- 静岡県教育委員会：つながりキャンプ実施運営マニュアル，https://www.mext.go.jp/content/20200604-mxt_kyousei02-1418084_001.pdf

- 杉浦建：転機の心理学，ナカニシヤ出版，2004.
- 杉本希映，青山郁子，飯田順子，遠藤寛子：小学校・中学校・高校で受けてきた心理教育の頻度および有効度の認知—いじめに関する心理教育の影響に着目して—，カウンセリング研究 50(3.4)，pp.143-151，2017.
- 鈴木翔，岡邑衛，歌川光一，中村豊 秋田大学教養基礎教育研究年報(21)，pp.55-65，2019.
- 総務省：令和元年度版通信利用動向調査，https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin02_02000148.html
- 総務省：令和元年度版通信利用動向調査，https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin02_02000148.html
- 曾良一郎：ネット・ゲーム依存は心の病 背景に生きづらさ，神戸新聞，2020.
- 高瀬博：中学・高校時における「特別活動（主に学校行事）」に対する大学生の意識について，関東学園大学紀要 Liberal Arts(15)，pp.1-16，2007.
- 竹内和雄・富田幸子ら：ネット依存対策キャンプ参加者のインターネット使用の現状と対策，芦屋大学論叢(74)，pp.61-72，2020.
- 千葉直子・関良明・堀川裕介・橋元良明：青少年の安全なインターネット利用を実現する家庭の取り組みに関する考察，情報処理学会論文誌(55)，pp.311-324，2013.
- 鶴田利郎・竹内和雄：第3章 スマホ問題とインターネット依存，生徒指導の最前線シリーズ第3巻生徒指導のリスクマネジメント，pp.67-97，2020.
- 鶴田利郎・石川久美子：高等学校における教科横断的なインターネット依存改善のための授業実践，コンピュータ&エデュケーション(47)，pp.65-68，2019.
- 鶴田利郎：中学校・特別活動におけるゲーム障害・インターネット依存を題材とした継続的な授業実践，コンピュータ&エデュケーション，49，pp.58-61，2020.
- 独立行政法人国立青少年教育振興機構：平成26年度文部科学省委託事業「青少年教育施設を活用したネット依存対策研究事業」報告書，2015.
- 富田幸子：いじめ撲滅劇の取組が参加生徒に与える影響—M-G-T-A(修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ)による質的実証研究—，日本特別活動学会紀要 第28号，pp.45-54，2020.
- 内閣府：令和2年度 青少年のインターネット利用環境実態調査(PDF版)，<https://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/r02/net-jittai/pdf-index.html>
- 西平直喜：自分さがしの青年心理学，北大路書房，2000.
- 日本経済新聞：ゲーム依存は病気 WHO 国際疾病の新基準，<https://www.nikkei.com/article/GXMZ045280950V20C19A5MM8000>，2019.
- 兵庫県青少年本部：人とつながる Off-Line Camp 実施運営マニュアル，https://www.mext.go.jp/content/20200604-mxt_kyousei02-1418084_003.pdf
- 兵庫県：人とつながるオフラインキャンプ，<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk16/offlinecamp.html>
- 平井大祐・葛西真記子：オンラインゲームへの依存傾向が引き起こす心理臨床的課題—潜在的な不登校，ひきこもり心性との関連性. 心理臨床学研究，24(4)，pp.430-441，2006.
- 堀出雅人：野外活動施設での青少年向けインターネット依存予防教育の実践，日本教育工学会論文誌(42)，pp.185-188，2018.
- 益山桂太郎ら：薬物依存症に対する外来集団療法の有効性に関する検討：SMARPP テキストの導入による参加者及びスタッフへの影響，日本アルコール関連問題学会雑誌 13，2011.
- 宮里勝政ら：アルコール依存症の予防と治療的介入—教育的，集団療法的アプローチ，精神医学 30(5)，1988.
- 牟田武生：ネット依存の恐怖—ひきこもり，キレル人間をつくるインターネットの落とし穴—，教育出版，2004.
- 文部科学省：GIGA スクール構想の実現パッケージ～令和の時代のスタンダードな学校へ～，https://www.mext.go.jp/content/20200219-mxt_jogai02-000003278_401.pdf
- 森田洋司：いじめとは何か—教室の問題，社会の問題—，中公新書，2010.
- 文部科学省：「青少年教育施設を活用したネット依存対策推進事業 実施運営マニュアル事例集」，https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/ikusei/1418083.htm
- Buhler,C. Loneliness in maturity. Journal of Humanistic Psychology,9,1969.

- Chen, S.Y., & Tzeng, J.Y. : College female and male heavy Internet users' profiles of practices and their academic grades and psychosocial adjustment. *Cyberpsychology, Behavior, and Social Networking*, 13(3) : pp.257-262, 2010.
- Griffiths, M.D. : Internet addiction: Does it really exist? In J. Gackenbach (Ed.), *Psychology and the Internet: Intrapersonal, Interpersonal and Transpersonal Applications*. pp. 61-75. New York: Academic Press, 1988.
- Hsu, S., Wen, M., Wu, M. Exploring user experiences as predictors of MMORPG addiction. *Journal of Computers and Education*, 53(3), pp.990-999, 2009.
- Parks, M.R., & Roberts, L. D. : Making MOOsic' : The development of personal relationships on line and a comparison to their off-line counterparts. *Journal of social and personal relationships*, 15(4), pp.517-537, 1998.
- William Powers : A Practical Philosophy for Building a good Life in the Digital Age. (有賀裕子 訳: つながらない生活「ネット世間」との距離のとり方. プレジデント社, 2012), 2010
- Young, K. S.. Internet addiction: The emergence of a new clinical disorder. *Cyberpsychology & behavior*, 1(3), pp.237-244, 1998.

〈発 表 資 料〉

- 「スマホ時代の教員として～スマホに負けない教師であるために～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 60 pp24-25 学事出版 2020年4月
- 「大阪女児誘拐事件について考えた」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年4月
- 「ゲームは1日60分?～香川の条例案を考えましょう2～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 61 pp24-25 学事出版 2020年5月
- 「ネット時代の教育相談、指導のあり方」 竹内和雄 『こころの科学』 221 pp38-42 日本評論社 2020年5月
- ネット時代の教育相談、指導のあり方(子どものこころとインターネットー家庭や学校は、子供にインターネットをどう教えるか) 竹内和雄 こころの科学 221 pp34-42 日本評論社 2020年5月
- 「大人と子どもの常識の違い」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年5月
- 「コロナでスマホ漬け?」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 62 pp24-25 学事出版 2020年6月
- 「ネットいじめについて教えてください」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年6月
- 7月号「Withコロナ? 子どもたちはいま?～無表情な子どもたちに想う～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 63 pp24-25 学事出版 2020年7月
- 「ウィズ・コロナ」時代のおとなが知っておきたいこと 竹内和雄 『青少年問題』 67 pp10-17 青少年問題研究会 2020年7月
- 試されているのは私たち大人(特集 スマホ・SNSの利用ルールづくり) 竹内和雄 月刊学校教育相談 34(8) pp14-17 ほんの森出版 2020年7月
- 「ウィズ・コロナ」時代の大人が知っておきたいこと(特集 ネット・スマホ時代の子どもたちと非行と被害防止の方策) 竹内和雄 青少年問題 67 pp10-17 青少年問題研究会 2020年7月
- 「スマホ時代の子育て」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年7月
- 「インターネット依存問題に対するわが国の学校における教育的支援についての現状と課題」 竹内和雄, 松山康成, 安東茂樹 『日本教育情報学会年会論文集 36』 36 pp28-29 日本教育情報学会 2020年8月 査読あり
- 「Withコロナ? 子どもたちはいま?～ストレスを抱えた子どもたち～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2020年8月

- 「養護教諭オンライン座談会～前編～」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年8月
- 「携帯電話の持ち込み問題～誤解せず冷静に考えましょう～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2020年9月
- 「養護教諭オンライン座談会～中編～」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年9月
- 「コロナ不登校生から考えるこれからの教育」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2020年10月
- 「子どものメンタルチェックと教師にできること」 竹内和雄 『道徳教育』 60(10) pp22-25 明治図書 2020年10月
- 「養護教諭オンライン座談会～後編～」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年10月
- 「コロナ後の教師が考えること」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2020年11月
- 「読者の声に応えます」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年11月
- 「問題行動調査をくわしく見てみた」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2020年12月
- 「子どもたちとネットルール」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2020年12月
- 「スマホネイティブ2世の襲来～学校は大丈夫か～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2021年1月
- 「保護者からの相談～男児編～」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2021年1月
- 「ネット依存が蔓延？～大阪府の2万人アンケート調査結果より～」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2021年2月
- 「保護者からの相談～女児編～」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2021年2月
- ネット依存対策キャンプ参加者のインターネット使用の現状と課題 竹内和雄, 富田幸子, 松山康成, 安東茂樹 芦屋大学論叢 74 pp61-72 芦屋大学 2021年3月 査読あり
- 「2020年度を振り返って」 竹内和雄 『月刊生徒指導』 64 pp24-25 学事出版 2021年3月
- 「保護者からの相談～まとめ編～」 竹内和雄 養護教諭雑誌『健』 40 pp15-17 日本学校保健研修社 2021年3月